



下街道: 伝馬町—大曾根—勝川橋

那古野神社 (祭神素戔鳴尊)
創建は延喜11年(911)、名古屋城三の丸
辺りにあり織田信秀と今川氏豊との戦い
“那古野合戦”で焼失、信秀再建。明治9年
現在地へ。



東照宮
尾張初代藩主義直が元和5年(1619)名古屋
城内三の丸に父家康の像を祀ったのが始まり
明治9年現明倫堂跡に移される(義直合祀)
戦災で焼失、昭和28年建中寺から義直夫人春姫
の廟を移築。

明倫堂
尾張9代藩主徳川宗睦が藩士の子弟教育の
ため開設。初代督学は細井平洲。

桜天神
信長の父織田信秀は菅原道真公を
深く信仰し、那古野城の中に祠を設
け公を祀っていた。天文7年(1537)
現在地に移した。当時このあたりは
桜の名所であったので桜天神の名称
となった。



伝馬会所札の辻
名古屋城下の街道の基点。
東南角:高札場跡
南西角:伝馬会所跡(慶長18年創設)
北西角:飛脚会所跡(寛文5年創設)
名古屋—江戸へ書状、物品の定期便



呉服商伊藤家の跡
後松坂屋
那古野神社
東照宮
明倫堂跡
横井也有出生地碑
茶屋四郎二郎清次の弟
新四郎長吉尾州茶屋跡

伝馬町通本町
伝馬会所札の辻址碑

石山寺 (天台宗、密蔵院末寺)
寛元年間(1243-47)道円の開基
と言われる。本尊が近江石山寺
の観音と同じ木で彫ったと言われ
寺の名そこに由来とか。
延宝3年(1675)藩主光友再建。



山田天満宮
寛文12年(1672)將軍家綱が文教政治を
奨励下に応えて藩主光友が藩の文教、
領民守護として大宰府から勧請した。

内津草
大曾根辺りで
“おもいづる詩ありとりなく里の月”
“片耳にかたがは町のむしの声”
横井也有

芭蕉句碑
“有とある たとえにも似ず
三日の月”

享保10年の頃から油屋
尾張藩の御用達勤める
現在の建物文化5年のもの

加藤忠三郎宅址
相生町柘形
大光寺
井上士朗宅址

熊野屋
赤塚神社

建中寺
尾張徳川家菩提寺
光友が父義直を弔う
ため創建

佐野屋辻道標
辻の北西で酒屋“酒佐野屋”と
その子孫“味噌佐野屋”が豪商で
あったことから辻の名称となる

水野太郎左衛門鑄物師址

貞祖院

尾張藩御釜師加藤忠三郎宅址

永禄のころ守山村に住み慶長6年藩主に
招かれ清須へ、同16年に現在地へ移り、
水野家とともに鑄物師として藩の御用勤める。

永禄5年(1562)初代水野太郎左衛門の時
信長より尾張国内の鐘、塔、鱧口などの
鑄造の特権を得る。慶長16年(1611)清須
よりこの地に移る。江戸時代尾張藩の鑄
物頭を勤める。国内の鑄物はすべてこの
家を経た。

永禄のころ守山村に住み慶長6年藩主に
招かれ清須へ、同16年に現在地へ移り、
水野家とともに鑄物師として藩の御用勤める。

“かち人の蹴あげや
駕に露時雨”
也有
勝川橋
庄内川

地蔵堂と天王社
東春酒造
蔵式水屋

高牟神社
祭神高皇産霊命他
石山寺

坂口屋
元煮売屋
山田川渡し場

天神橋
山田川

山田重忠朝臣之碑
清和源氏の子孫、祖父の重直か河辺社(七玉町)
から移住を期に源氏から山田姓に改める。
重直は永治元年(1142)34歳で逝く、その後一族は
尾張、美濃、三河、近江に勢力を伸ばすその中心が
重忠。所領の山田荘は北区、東区、守山区、春日井市
重忠は“承久の變”の時朝廷側に付き杭瀬川、瀬田川
で奮戦するが京都嵯峨野の竹やぶで自決する。

山田重忠朝臣之碑
慶長13年(1608)松平忠吉の養母押加茂が
忠吉の位牌所として清須に建立。寛保2年
(1742)現在地に移る。本堂は明治5年(1872)
建中寺の4代藩主吉通公の霊廟を移したのもの。

貞祖院
慶長13年(1608)松平忠吉の養母押加茂が
忠吉の位牌所として清須に建立。寛保2年
(1742)現在地に移る。本堂は明治5年(1872)
建中寺の4代藩主吉通公の霊廟を移したのもの。

井上士朗宅址 (大光寺)
“尾張名古屋は城(士朗)で持つ”と言われた
井上士朗は守山で生まれ、伯父の後を継ぎ
医者となる。そのかたわら俳諧を志す。
江戸の道彦、京の月居、名古屋の士朗と
寛政の3大家となる。

水野太郎左衛門鑄物師址
永禄5年(1562)初代水野太郎左衛門の時
信長より尾張国内の鐘、塔、鱧口などの
鑄造の特権を得る。慶長16年(1611)清須
よりこの地に移る。江戸時代尾張藩の鑄
物頭を勤める。国内の鑄物はすべてこの
家を経た。

尾張藩御釜師加藤忠三郎宅址
永禄のころ守山村に住み慶長6年藩主に
招かれ清須へ、同16年に現在地へ移り、
水野家とともに鑄物師として藩の御用勤める。

このあたり松があり、“喜一坂”といわれ
難所であった。馬が倒れたので馬方が
馬頭観音を建てたという。今石山寺
山門脇にある。

東春酒造蔵式水屋
城郭のように石積した上に蔵式水屋残る
佐藤藤兵衛が元治2年(1865)名古屋城の
櫓建造予定の材木を譲り受け酒蔵を造る
屋号“龍田屋”酒銘柄“菅公”今“東龍”



山田重忠朝臣之碑
清和源氏の子孫、祖父の重直か河辺社(七玉町)
から移住を期に源氏から山田姓に改める。
重直は永治元年(1142)34歳で逝く、その後一族は
尾張、美濃、三河、近江に勢力を伸ばすその中心が
重忠。所領の山田荘は北区、東区、守山区、春日井市
重忠は“承久の變”の時朝廷側に付き杭瀬川、瀬田川
で奮戦するが京都嵯峨野の竹やぶで自決する。

貞祖院
慶長13年(1608)松平忠吉の養母押加茂が
忠吉の位牌所として清須に建立。寛保2年
(1742)現在地に移る。本堂は明治5年(1872)
建中寺の4代藩主吉通公の霊廟を移したのもの。

井上士朗宅址 (大光寺)
“尾張名古屋は城(士朗)で持つ”と言われた
井上士朗は守山で生まれ、伯父の後を継ぎ
医者となる。そのかたわら俳諧を志す。
江戸の道彦、京の月居、名古屋の士朗と
寛政の3大家となる。

水野太郎左衛門鑄物師址
永禄5年(1562)初代水野太郎左衛門の時
信長より尾張国内の鐘、塔、鱧口などの
鑄造の特権を得る。慶長16年(1611)清須
よりこの地に移る。江戸時代尾張藩の鑄
物頭を勤める。国内の鑄物はすべてこの
家を経た。

尾張藩御釜師加藤忠三郎宅址
永禄のころ守山村に住み慶長6年藩主に
招かれ清須へ、同16年に現在地へ移り、
水野家とともに鑄物師として藩の御用勤める。